物語文における登場人物の感情理解を促進するイメージ図式

○伊藤尚枝

(恵泉女学園大学 人間社会学部)

キーワード: 物語理解, 登場人物の感情, イメージ図式

An image schema to promote a better understanding of emotions of characters in narrative

Hisae Ito

(Faculty of Human and Social Studies, Keisen University)

Key Words: Narrative Comprehension, Character's Emotion, Image Schema

目 的

Richardson et al. (2001)は、例えば「○が□を尊敬する」「○が□を軽蔑する」という動詞文を使用して、読者が○と□をどのような位置関係でイメージするか自由に描画させて調べた。すると、上下方向の空間イメージを表象していることがわかった。そして、言語によるコミュニケーションが円滑に進むのは、このような空間のイメージ図式が話者間で共通基盤になっているからかもしれないと指摘している。

物語を作者と読者のコミュニケーションと考えれば、人物の気持ちを読み取っている読者ほど、空間イメージを表象していると推測できる。本研究は、登場人物の感情理解の違いに応じて、動詞文の空間イメージの違いがあるかを調べる。

方 法

実験参加者 女子大生 42 名 (19~22 歳)

呈示文 「スチュワーデス志願」(1200 字程度)を一部改変して使用した(女のレポート編集部編, 2010, pp. 44-45)。あらすじを表 1 に示す。

表 1 呈示文のあらすじ

第 1 段落	1960年代、私は羽田空港の国際カウンターで、地上勤務職員として働いていた。その当時も、スチュワーデスは、若い女性にとってあこがれの職業だった。
第 2 段落	あの頃は、就職の情報がなかったので、春先になると、スチュワーデス希望の若い女性達が空港に現れた。そして、情報を得ようとして、空港内をウロウロして、働く人達をじっと見つめていた。
第 3 段落	口の悪い先輩は、そんな彼女たちを「空港に来ても意味がない」と相手にしない。あるとき、私は 1 人の女性から質問された。私は誠意を持って彼女に応答した。
第 4 段落	数年後、私は 1 人のスチュワーデスから声をかけられた。私に質問した彼女であった。彼女の颯爽とした姿を見て胸が熱くなった。

手続き 呈示文を第 3 段落まで黙読してもらったあと、描画課題に答えてもらった。課題では、まず、図 1 を例示した。そして、○だけを書き込んだマス目を呈示して、「若い女性(○)が、私(△)に質問する。」からイメージできる○と△の位置を描画するように求めた。図 1 のマス目は、平ら(2009)を参照にして作った。

続けて、「1 人の若い女性が私に声をかけた時、その女性は、どの程度不安な気持ちだったと思いますか?」という質問に答えてもらった。この質問には、「少し不安(1点)」「とても不安(8点)」までの 8 件法で回答してもらった。最後に第 4 段落まで黙読してもらった。

(例) ○が△を尊敬する
図 1 描画課題の例題

結 果

1. 不安の程度で 2 群(低群・高群)を構成(質問項目)

女性の不安の程度を表す得点順にならべて、得点の低い 9 名(1~6 点)を低群とした。得点の高い 9 名(7~8 点)を高群とした。残り 24 名は分析から除外した。2 群の平均値と標準偏差を表 2 に示す。2 群の平均値に有意な差が認められたので、高群のほうが低群よりも、若い女性の不安な気持ちを理解していたといってもよいだろう。

2. 上下方向の空間イメージの分析(描画課題)

2 つの群ごとに、○から△をつなぐ矢印の角度を測定した。角度は、水平方向を 0 度として、垂直上下方向(90 度~90 度)で数値化した。表 3 に低群と高群の角度の平均値と標準偏差を示す。2 群の平均値に有意な差が認められた。高群のほうが、私(△)を若い女性(○)よりも上方向に描いて、上下の位置関係を表象していたようである。

表 2 不安の得点の平均値と標準偏差

高群 $n = 9$	低群 $n = 9$	t 値	自由度
7.56 (0.73)	4.56 (1.33)	5.93**	16
* $p < .05$, ** $p < .01$			

( ) 内は標準偏差を表す。

表 3 描画の矢印の角度の平均値と標準偏差

高群 $n = 9$	低群 $n = 9$	t 値	自由度
48.89 (19.17)	18.89 (14.53)	3.47**	16
* $p < .05$, ** $p < .01$			

考 察

女性の不安に共感している高群のほうが、私(△)を女性(○)よりも高い位置に表象していた。人物の気持ちを理解している読者ほど、私と女性の立場の強弱関係を上下の空間イメージとして表象できていたと推測できる。

引用文献

- Richardson, D. C., Spivey, M. J., Edelman, S., & Naples, A. J. (2001). "Language is spatial": Experimental evidence for image schemas of concrete and abstract verbs. *Proceedings of the 23rd Annual Meeting of the Cognitive Science Society*, 873-878.
- 平 知宏・中本 敬子・木戸口 英樹・木村 洋太・常深浩平・楠見 孝 (2009). 具体文および抽象文を用いた行為・文一致効果の実験的検証. *認知心理学研究*, 7, 57-66.